

東都文京



2024年1月1日 第36号

発行：医療法人社団大坪会
東都文京病院広報委員会

〒113-0034

東京都文京区湯島3-5-7

TEL: 03-3831-2181

～2024年年頭のご挨拶～



早いもので2023年も終わり、2024年1月を迎えました。改めて、明けましてお目出度とう御座います。皆様におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。さて、元旦と元日は、どちらも1年の始まりを表す言葉ですが、一体どのような違いがあるかご存じでしょうか。元旦は1月1日の朝（午前中）、元日は1月1日の“1日”を指すとされています。1月1日に配達される年賀状は、基本的に午前中に届けられるので「元旦」という言葉を使うことが多いようです。ちなみに、正月は、年神様という神様をお迎えするための行事です。年神様は五穀豊穰を司る農耕の神様で、地域によっては「お正月様」「徳々神」などと呼ばれます。年神様は元旦になると家にやってきて、1年の幸運をもたらして厄をはらうとも言われています。

世界情勢を見ますと、イスラエル-パレスチナ間の戦争は収まるどころか激化の一途を辿り、罪の無い人々まで犠牲になっており、一日も早く収束することを願っております。ロシアのウクライナへの侵攻も収束を見ることなく、世界経済へ打撃を与え続けています。国内を見ても、物価高に歯止めが効かず、すべての物が値上がり、また、円安ドル高の状況のため、インバウンドが増え、オーバーツーリズムが社会問題になっています。一方、あれだけ猛威を奮ったCOVID-19感染症も収束の気配をみせておりますが油断禁物です。その代わりに、インフルエンザ、M-POXなどの感染症が問題になっており、M-POX感染症患者の死亡も初めて報告されました。改めて日常の感染症対策の重要性が認識されました。診療面では引き続き発熱外来、COVID-19感染症中等症の治療、ワクチン接種等、を通じて文京地区の感染症治療、予防に全力を注いでいく所存です。

当院では、看護スタッフも補充され、入院を断らない医療の提供を心がけております。疾患によっては他院に紹介することもあります。まずはご相談頂ければ対応させていただきます。臨床面では、循環器専門医が赴任して以来、循環器疾患、心エコー検査件数が飛躍的に増加しております。心臓、消化器、等不安を抱える方は御気軽に相談して下さい。また、病気は症状が出る前に発見することが重要です。当院健診センターにおける人間ドッグを積極的に活用して頂ければと思います。念願の新棟建設計画は延び延びに

なっておりますが、現存の建物を大事に使用していきたいと考えております。皆様方からのご意見に耳を傾け、改善しつつ、ご要望に応えられる病院を目指して参ります。今年一年が皆様にとって良い年になることを祈念しております。本年も、引き続きご指導、ご支援を宜しくお願い致します。

2024年元旦

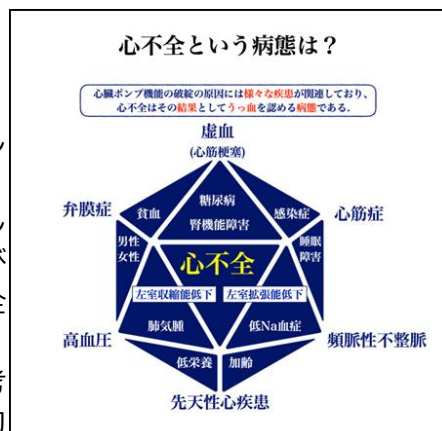
東都文京病院院長 窪田 敬一

文京コラム

心不全とは？

A. 心不全という病態は？

心不全とは、“心臓ポンプ機能の破綻による臨床症候群”であり、心臓ポンプ機能の破綻の原因には様々な疾患が関連しており、心不全はその結果として‘うっ血’を認める病態です。‘うっ血’とは、血液の流れが悪くなり、静脈血が滞ってしまう状態を示します。つまり、心不全は様々な疾患（心疾患および非心疾患）を原因として症状が現れるため、心不全の病態を理解するためには何が基礎心疾患なのか、そして基礎疾患として何があるのかについて十分考察する必要があります。また、心不全の治療の目的は、このような心不全の病態を理解して、「患者様の自覚症状、症候および血行動態を速やかに改善させて、その安定を長期間維持すること」であります。つまり、急性期のみならず慢性期の予後も改善するような治療戦略を患者様ごとに検討すべきであると考えています。



B. 心不全の病態：‘うっ血’の評価

心不全は‘うっ血’を主病態とする症候群です。この‘うっ血’をいかに早期発見して早期治療するかが重要な課題となります。‘うっ血’は潜在性に存在し、まずは夜間発作性呼吸困難 (Paroxysmal Nocturnal Dyspnea; PND) や階段昇降時などの息切れなどの症状で認められると考えられます。その後、‘うっ血’は顕在化して下腿浮腫、安静時呼吸困難、そして全身浮腫を認めることとなります。

このため、まずは潜在性‘うっ血’の段階でうっ血であることを認識できるような評価方法を構築する必要があります。その簡潔かつ迅速な方法として、①BNP (脳性ナトリウム利尿ペプチド; Brain Natriuretic Peptide) 採血検査、②心臓超音波検査があります。このため、動悸・息切れ・下肢浮腫などでお困りの時は循環器内科外来への受診をご検討ください。

東都文京病院副院長 循環器内科
梶本 克也 (かじもと かつや)

詳しくは病院ホームページもご覧ください。
<https://www.tohtobunkyo-hp.com>